

市民団体の提案と三者協議による宇部自転車レーン実現への道のりと展望

うべ交通まちづくり市民会議	非会員	○三浦 泉彦
山口大学	正会員	村上ひとみ
宇部市地球温暖化対策ネットワーク	非会員	兼久 威矩
宇部市道路河川管理課	非会員	村上 守

1. はじめに

うべ交通まちづくり市民会議(通称・うべこまち)は持続可能な交通を考えることを目的として2010年に設立され今日に至っている。環境対策が追い風となって、日本の内外を問わず、各地で自転車利用促進のために自転車通行空間を確保しようといった動きが見られるようになってきているが、国内の多くの事例は行政主導による空間確保で、行政と警察、市民団体によって合意形成したケースは金沢市など少数に留まっている。宇部市初の自転車レーンが市の事業として2015年3月末に完成した機会に、市民団体・うべこまちがどのように係ったかを説明したい。

2. 宇部市の地形、都市環境

宇部市の人口は171,996人(2015年現在、住基台帳?)、面積287.91km²である。古くから瀬戸内海を干拓し、海岸を埋め立てをして工場地帯ができており、人口が集中する中心市街地は平坦な地形を有し、自転車を利用しやすい。一方、郊外住宅地は丘陵地帯に広がっている。15歳以上の通勤通学での自転車利用が14.9%であり、特に通学者の57.6%が自転車を利用している(2010年国勢調査)。このような中で自転車の走行空間は圧倒的に歩道走行が多い。山口県道路交通センサス調査によると車道走行は5%程度にとどまっている¹⁾。



図1 宇部市の地図・主要部

3. 自転車レーン施工区間

施工区間は都市計画道路、鍋倉草江線、国道190号線鍋倉交差点から山口宇部空港を結ぶ全長約5.6kmの道路のうち、神原交差点から清水川交差点までの約900mである。JR宇部線とほぼ平行に走り途中駅とも近距離にあり、小中高の学校、文化・体育施設、福祉施設、病院などが沿線上に立地している。学生のみならず更なる自転車利用の可能性を持った路線といえる。計画区間の神原町1丁目における平日朝・夕各2時間の自転車・歩行者交通量測定結果を図2に示す。自転車の歩道通行率はほぼ99%であり、歩行者を圧迫していること、朝は西行きの登校や出勤、夕は東行きの帰宅の自転車が多いことがわかる。

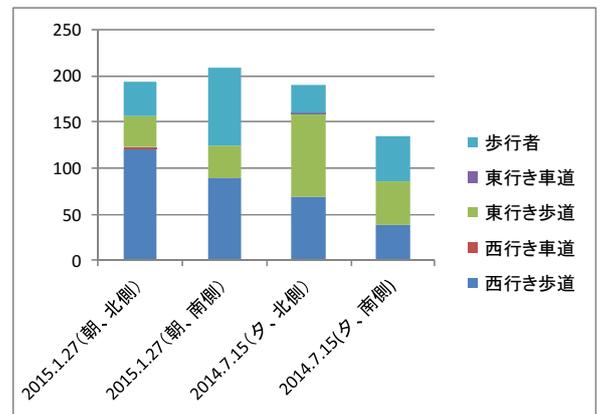


図2 神原町1丁目ローソン前歩行者・自転車交通量(施工前、朝7-9時、夕16-18時)

自転車レーンの位置図と断面を図3に示す。車道幅員が約10mと2車線にしては広く、右折レーン・スポットを入れても余裕がある。車道断面の街渠50cmの外にレーンとして100cmの幅をとり車道外側線(白線)を引き、その内側に30cmの青いラインをいれ、自転車マークと矢印を白で表示した。途中の交差点3か所と東端の清水川の前及び交差点内に自転車直進できる青い矢羽根を表示し、自転車横断帯は消した。なお、計画にあたり、国のガイドライン²⁾の条件に従い、自動車交通量約7,000台、車道幅員、速度規制(50⇒40km/時)から、自転車レーン(法定外)の方式を選択した。自転車歩行者道の指定は解除していない。

キーワード 自転車レーン, 市民提案, 交通安全, 交通まちづくり, 三者協議, 道路整備
 連絡先 〒755-8611 宇部市常盤台2-16-1 山口大学工学部(村上ひとみ) TEL:0836-85-9723



図3 自転車レーン位置図と横断面(宇部市 HP より引用)



図4 レーン走り初めイベント(2015.04)



図5 交差点前・内の矢羽根(2015.04)

4. 自転車レーン提案にむけた市民団体・うべこまちの活動

うべこまちは、2010年の設立当初から都市計画道路鍋倉草江線(通称・産業道路)での自転車レーンを視野に入れ活動してきた。同年、11月に同区間で市民草の根通行実験を行っている。2011年度～2013年度には、NPO自転車活用研究会の小林・疋田氏ら、自転車政策面でのオピニオンリーダーといわれる方々を招き、自転車先進地の事例を学ぶための自転車まちづくりシンポジウムや走行イベントを開催し、E-サイクルモニターを介した情報発信に取り組む宇部市地球温暖化対策ネットワークと協力して、自転車環境整備の足場固めを行った。

2012～2014年度：自転車安全ハンドブックを作成し、市内の中学卒業生約1600名に毎年3月、贈呈。

2013年11月：宇部市長と市民団体の意見交換会に、自転車レーン整備と自転車を活用したまちづくりを提案し、2014年度予算で自転車レーンモデル施工に至る。市、警察、市民団体の三者協議がスタート。

2014年度：自転車レーン通行安全マップづくりワークショップ開催(自転車政策先進地の大分市視察含め全4回、自転車安全マップ作成)。施工側の市と警察と実際の自転車レーン案に対しての意見交換会により起点の清水川交差点レーン走行に導く矢羽根が実現、速度規制を50kmから40km/時に変更上申(警察から公安委員会に)。安全マップを予定レーンの近郊の中学校、高等学校、周辺の事業所、自治会への配布。

2015年度：自転車レーン完成、完成記念走行イベント(図4,5)。立哨指導・呼び水走行を実施中。自転車レーン利用率の測定や、レーンへの評価アンケートを村上研究室(山口大学)とうべこまちの協力により実施予定。

5. まとめ

宇部市で初めての自転車レーンが2015年3月に実現に至るまでの市民団体・うべこまちの5年間活動をまとめた。自転車レーンが市民に認知され、左側通行ルールを厳守して安全に利用される必要がある。自転車を歩道に野放しのままでは高齢者など交通弱者が歩道を歩くが怖くなり、人通りが少ない現状があるが、今こそ、負の連鎖を断ち切る時である。環境面で語られることの多い自転車だが、健康・福祉の面での利点が多い。地域で行政、警察、市民、学校、自治会、企業などが参加し、自転車ネットワーク協議の場を設け、計画的に取り組んでいきたい。

謝辞：うべこまち活動を支援頂いた小路泰広氏(国土交通省)、藤本典昭氏(エフラボ)、会員他各位に謝意を表します。山口きらめき財団、宇部市協働のまちづくり提案サポート事業の助成を受けたことを付記します。

参考文献：1) 玉川裕大・村上ひとみ：自転車事故の地理的分布と走行空間整備に関する研究(1)宇部市の事例、日本建築学会中国支部研究報告集、No. 38, 2015. 2) 安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン、国土交通省・警察庁、2013年11月 <http://www.mlit.go.jp/road/road/bicycle/pdf/guideline.pdf> (2014.06.02閲覧)